

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例

農林水産大臣賞

そばの力で農村集落を次世代へ 伝統と革新が息づく力強いむらづくり

○団体名 横岡集落 (横岡稲倉そば生産組合 組合長 齋藤 喜久男)

○所在地 秋田県 にかほ市

○むらづくりの背景・経緯

横岡集落では、少子高齢化・担い手の減少等により、保全管理されない農地が増加していたことから、平成23年にそば生産組合を設立し、地域の耕作放棄地の農地集積を行い、そばの作付け拡大に取り組んだ。その後、近隣地域のそば生産組合と協議会を組織し、現地研修会や情報交換を行いながらそば生産を盛り上げる活動を行っている。

さらに、にかほ市が行っているグリーンツーリズムの活動では、集落と生産組合が連携し、都市部の子供たちの受け入れを行ったことで地域外との交流が活発となっている。

令和3年には、地域おこし協力隊「Ventos (ベントス)」との連携により、都市住民への情報発信など、新たな展開を見せ始めている。



ゲストハウス改修に参加する住民等

○むらづくりの内容

(1) 農業生産面

そば生産組合では徹底した排水対策を実施し、土壌診断の結果に基づいた施肥量調整を行うなど、収益向上につながる高度な栽培技術を確立している。また、夏そばと秋そばを組み合わせた作付けを行っており、毎年8月に都内の飲食店で開催される「新そば祭」では、収穫期が早い夏そばを全国に先駆けて提供し、県外の消費者に横岡産そばをPRしている。



集落内の棚田に作付されたそば

(2) 生活・環境整備面

そば生産組合では、耕作放棄地を解消してそばの作付けを行うなど、地域の景観保全に貢献している。

平成22年からは、市と連携して東京都港区の子供たちを受け入れ、農業体験やそば打ち体験を行っている。また、市が開催する婚活イベントのそば打ち体験では、そば生産組合の組合員が講師を引き受けるなど、地域外との交流活動にも積極的に取り組んでいる。

地域おこし協力隊が手掛けるゲストハウス「麓囃-Rokumasu」の改修には地域住民も参加しており、完成後は、他地域との関係人口創出や定住促進等の地域拠点として、集落やそば生産組合と連携した活用が計画されている。



そば打ちの伝承



改修中のゲストハウス